



岡崎市くらしの相談担当者

原のりひこ

担当者レポートNo17

原のりひこ
公式サイト



発行日：2025年7月29日
発行所：トヨタ自動車労働組合
発行人：近藤 大輔
編集人：原 紀彦
印刷所：(株)トヨタエンタプライズ

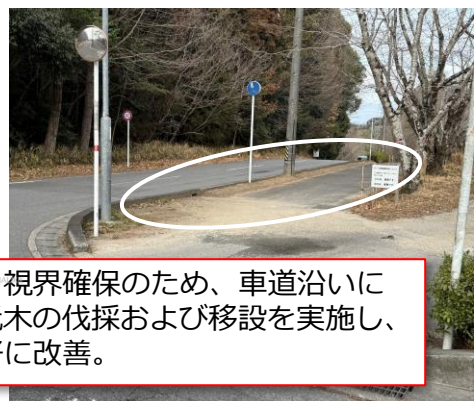
くらしの相談活動 くらしの相談トークで挙げられたお声をご紹介します！

【相談内容】

新香山中学校前のT字交差点にて、一時停止した際、右から車両が見えにくいため発進しようとした時出会い頭のヒヤリが発生している。



【対策内容】視界確保のため、車道沿いに生えている低木の伐採および移設を実施し、見通しを良好に改善。



【相談内容】

真伝町魂場交差点は道幅が狭く右折レーンがないため、朝晩の通勤・帰宅ラッシュ時には渋滞が慢性的に発生しているため右折レーンを設置して欲しい。



【対策内容】渋滞解消に向けて、今後交差点改良（道幅拡幅）を実施するための用地取得交渉を進めて行く予定。



その他 議会・地域貢献・要望・研鑽等 さまざまな活動を行っています

高岡工場 交通安全立哨活動



各工場を回り、定期的に啓発活動を実施

新潟市視察



新潟市動物愛護センター内の動物保護の取組を観察

鹿沼市視察



NPO法人を訪問しアニマルセラピーの取組を調査

学区福祉委員会定期総会



地元の各団体等の総会でご挨拶

全トヨタ労連政推議員情報交換会



伊藤たかえ参議院議員と情報交換

福岡市視察



PFI事業について、他市の取組を調査

岡崎市市議会 令和7年6月定例会

【議案数】 23件 【一般会計補正予算】 111,317千円

▲ 消防業務用 小型動力ポンプ付積載車3両を更新

▲ 市立小学校47校の1年生教室に電子黒板119台設置

▲ 救急業務用 災害対応特殊救急自動車2両を更新

▲ 市立小学校6年生及び中学校1年生タブレット更新

一般質問で登壇！【交通安全について】

本市の現状とこれからの生活道路が、

令和6年に発生した市内の人身事故は**919件**（うち死亡事故は7件）で、**令和5年と比較して27件増加**している。人身事故の発生場所を主要路線別にみると、**市道での発生が全体の48%を占めている**。

市道の多くは「生活道路」となっており、安全対策としてゾーン30の規制がありますが、殆どの生活道路では法定速度の60キロです。

この度、改正道路交通法施行令の施行により、**令和8年9月1日から生活道路全体で、自動車の法定速度が30キロに引き下げられる**ことが決まっています。



Q 今回の法定速度の変更による標識の設置や道路標示は行うのか。

A 法定速度となっている道路については、現在同様、標識の設置や表示の対応。

Q 法的定義がない「生活道路」への今回の法定速度の変更を道路管理者としてどのように周知していくのか。

A 交通規制を所管している警察や、道路管理者とも情報共有しながら、広報や交通安全教育の場を通じて市民に周知するとともに交通安全の確保に努めていく。



Q 後期高齢者ドライバーによる交通事故状況は。

A 75歳以上の（後期高齢者の）方による事故は、令和4年が83件で構成率は9.8%、令和5年が88件で10.3%、令和6年が103件で11.7%となっており、年々増加している。

Q 免許返納促進の取り組みは。

A 高齢者パスの補助は、高齢者の公共交通を利用したお出かけ機会の創出が免許の生活のお試し機会となり、その結果、免許返納の促進に繋がる施策であると考えている。

一般質問で登壇！【地域内交通について】 地域内交通の手引きがアップデート

全国では、交通サービスの維持・確保のため、「共助」の新しい仕組みとして、地域住民が運転手などの役割を担ったり、地域の自治会や企業が運行経費の一部を負担する「共助」の仕組みの導入が進んでいる。そこで、「共助による地域内交通」として、主には交通空白地における有償運送や、

ボランティア輸送などの無償運送の具体的な検討～導入～運営を行うためのガイドラインとして、「共助による地域内交通」編を策定し、先日5月末に公表した。

みんなでつくる 地域の交通

“共助による地域内交通”編



質疑の様子をチャットGPTでイラスト化

